

## 日本防災工業株式会社より 企業版ふるさと納税を受ける

日本防災工業株式会社(米沢市)代表取締役加藤富士雄様より、企業版ふるさと納税として、20万円とフェーズフリー浄水器「SESERA」9台、交換用カートリッジ18個をご寄附いただき、その感謝状贈呈式が5月19日(火)に役場「応接室」で行われました。

加藤代表取締役は、「防災は、フェーズフリーがトレンドとなっており、この製品をぜひ普段から活用していただきたい。」と話しました。

日本防災工業株式会社は、消防、防災、避難用品を中心に取り扱っています。この度ご寄附いただいた備品は、電源不要でいつでも飲料水として作り出すことができる製品で、日常の浄水器としても使用できます。

大変ありがとうございます。



## 東海林明夫さんが 全国人権擁護委員連合会会長表彰を受賞



この度、東海林明夫さんが全国人権擁護委員連合会会長表彰を受賞しました。これは、東海林さんが人権擁護委員として永らく活動された功績が認められたものです。大変おめでとうございます。

## 水明苑が小学校へ めだかを寄贈



※写真は、メダカなどを受けとる大石田小学校の様子  
指定障害者支援施設水明苑が、5月20日(水)に各小学校を訪れ、ミニメダカとヌマエビを寄贈しました。

これは、メダカを育てることを通して生命の大切さを学んでもらいたいとの思いから、例年実施している事業です。寄贈されたメダカは各小学校で大切に育てられます。

## 虹のプラザ文化芸術プロジェクト統括マネージャーコラム

### 「本物」は遠くから来るものだけではない。

vol.2

虹のプラザ文化芸術プロジェクト統括マネージャーの大橋です。前回のコラムでは、「本物に触れること」の大切さについて書きました。「本物」という言葉は少し強い言葉かもしれませんが、揺るぐ現象そのものであり、それは単に「有名であること」か、「都会から来ること」にこそ、本物は数多くあります。例えば民謡。節回しや声の響きには、その土地の気候や暮らし、人々の感覚が自然と滲み出ています。雪国特有の静けさや、人との距離感、季節と共に生きる感覚。そうしたものは、短い時間で簡単につくれるものではありません。長い時間の中で、人から人へ渡されながら残ってきたものです。それはまさに、この土地そのものが持っている営みの文化です。一方で、長くその場所にいるからこそ、私たちはその価値を見過ごしてしまつてとがあります。だからこそ、外からの刺激が必要なのではないかと感じています。地域に「新しいもの」を持ち込むというよりも、この土地に元々ある価値を改めて見つめ直すための時間を提案する。私は、その部分が実はかなり大きいのではないかと考えています。そして、その循環の中で子どもたちがこそ「本物」に触れてほしいと思つてい

ます。完成された正解を覚えるのではなく、人が本気で何かを表現している場に触れること。その体験は、言葉以上に感覚として残り続けます。文化芸術は、すぐに役に立つものではないのかもしれませんが、です。が、「何を美しいと思うか」「どんな時間を豊かだと感じるか」そうしたら、人の根っここの部分に関わっていく力があると私は思っています。そして虹のプラザが、そうした感覚を共有し、表現できる場所になっていければと思つています。「本物に触れる機会」の一つとして、7月31日と8月1日には、世界的サーカス団体Cirque du Soleil(シルク・ドゥ・ソレイユ)に出演経験のあるアーティストが、大石田町で新作の現代サーカス作品を制作し披露します。空中芸を駆使した子どもから大人まで誰でも楽しめる驚愕のパフォーマンスが展開される予定です。また、天童のダンススタジオチームと大石田のダンスクラブも参加予定です。先着順にはなりますが、町内在住の小中学生は無料で観覧可能です。招待券は虹のプラザ窓口にてお申し込みください。それでは、舞台で会いましょう。

虹のプラザ文化芸術プロジェクト統括マネージャー 大橋 武司



## 漫画カルチャーから着想 KIMERA(キメラ)を開催

フランスの身体演劇集団ラ・カンパニー・ディ・スクレットを迎えた大石田AIR企画のKIMERA(キメラ)が、5月22日(金)と23日(土)に虹のプラザ「なないろホール」で行われました。

公演は、不思議な列車に乗った少女が未知の世界を旅するなかで、大きな喪失を乗り越えていく物語を身体表現とオノマトペ(擬音語)を使い、表現しました。

本場フランスの pantomime によるユーモアと幻想的な身体表現と、光、映像、音楽が混ざりあい、まるで映画館にいるような幻想的な雰囲気会場全体が包み込まれていました。



## ストップのお約束 かもしかクラブ開校式

小学校に入学するまでの間、交通安全について学ぶことを目的としたかもしかクラブの開校式が5月12日(火)にふたば保育園で行われました。

クラブでは、町の阿部交通安全専門員による道路を渡る際の確認する合言葉でもある「ストップの約束」やお父さんお母さんとの手のつなぎ方などを学びました。

園児たちは、大きな声で左右を確認し、手をピンと張りながら、実演しました。

その後、町立図書館による絵本の読み聞かせも行われ、園児たちは楽しく学びました。